

# 新・農業人

新規就農の  
ための情報誌

2010年8月

創刊号 01  
[夏号]

## めざせ“農業維新” アイとマコトの新・農業人への道

農業を体験しよう

あなたの「農業」をシミュレート

—稲作編—

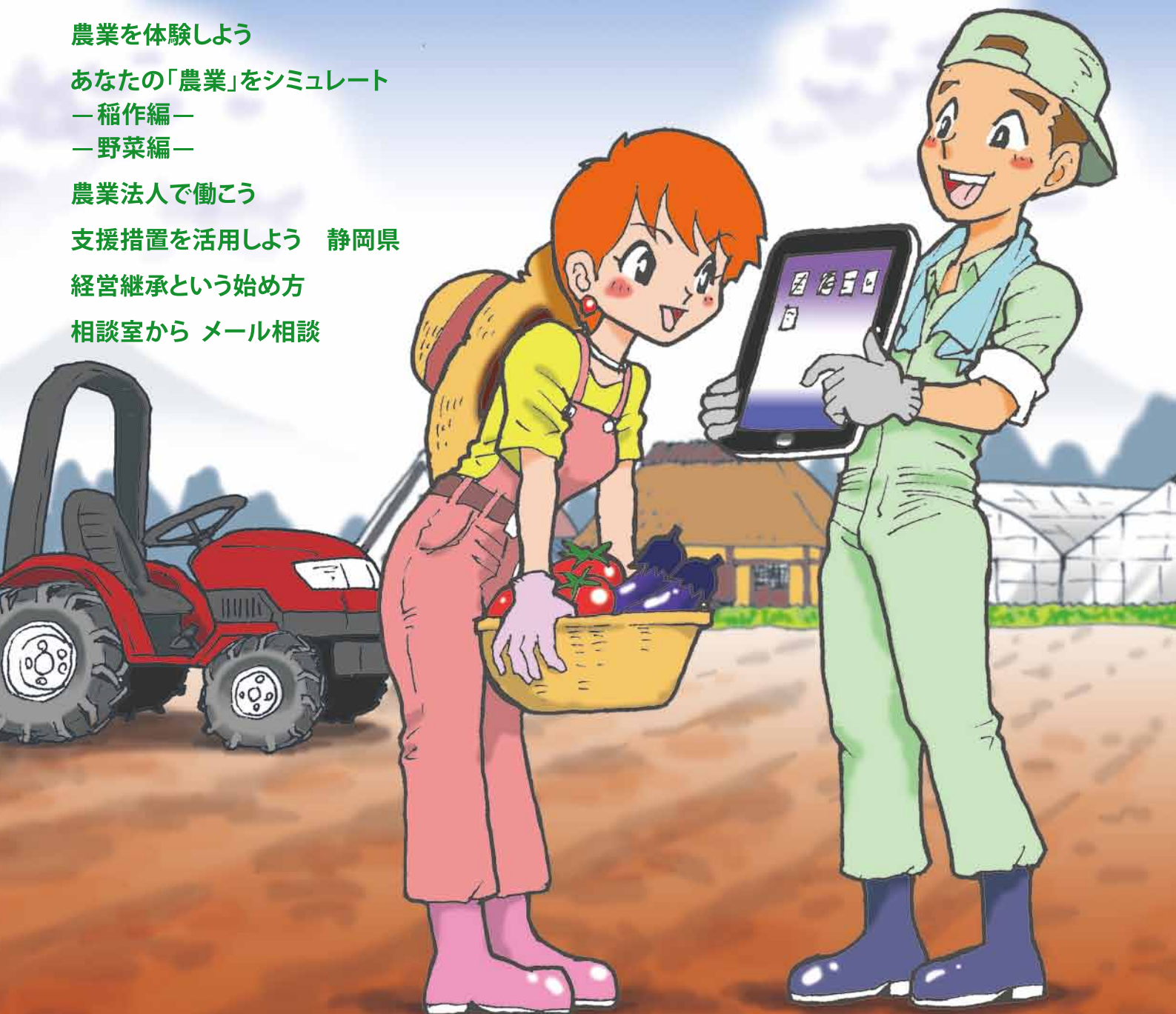
—野菜編—

農業法人で働こう

支援措置を活用しよう 静岡県

経営継承という始め方

相談室から メール相談



## 5 農業を始めるのに必要な5つの要素

農業経営を開始するためには、①技術、②資金、③農地、④機械・施設、⑤住宅の、5つの生産要素の準備が必要だ。

①技術については、学校で学ぶ方法と、農業法人等で従業員として勤めながら学ぶ方法がある。②資金については、就農支援資金や農業近代化資金などの無(低)利子の資金がある。

③農地の確保には、農業委員会の許可が必要であるほか、地元農家からの信頼獲得も欠かせない。④機械・施設は、なるべく多額の負債を負わないですむ方法を探ろう。⑤一部の市町村では移住者向けに住宅をあっせんしてくれる。

## 6 経営計画の作成方法

研修を終えたら、希望する経営イメージを浮かべて経営計画を立てよう。当初立てたプラン通りにはならないものだが、資金や農地などが具体的に決定するたびに計画を修正し、より現実的な計画にしていくのだ。

農林水産省のホームページからは、作目別経営内容、生産費が分かるほか、肥料、農業などの購入価格が確認できる。また、卸売市場のホームページから、販売価格を探ることができる。

就農地域がある程度決まってきたら、都道府県の県農業改良普及センターに相談することも有効だ。

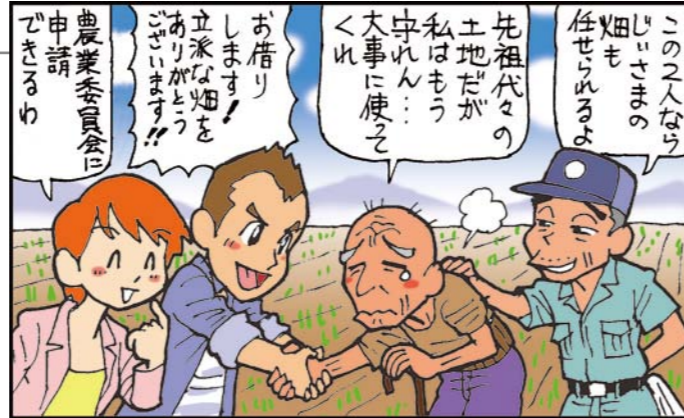
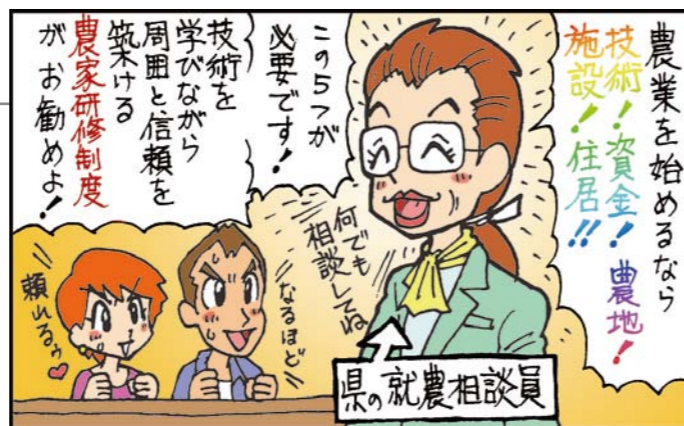
## 7 営農準備資金と就農支援資金

農業を始めるには、当然他の事業と同様に資金が必要になる。また、生産を始めてから代金を回収するまでの生活資金も必要だ。

新規就農の際には、無利子や低利資で借りられる公的資金を利用することができる。要件を満たした上で審査に合格する必要があるが、通常の借入資金と比べて有利だ。ただし、無(低)利子といっても借入金であることに違いはなく、返済可能な額を借りよう。

## 8 農地を借りるときの手続き

農地の売買、賃借には、当事者同士が合意した上で、農業委員会(市町村)の許可が必要だ。個人として農業を行う場合に許可を受けるためには、基本的に①農地の全てを耕作すること、②農業委員会が定めた面積以上であること(50a以上など)、③常時従事すること、④周辺の農地に悪影響を与えないこと、などが必要になる。2009年12月以降は、常時従事することが難しい場合でも、許可を得られるようになった。



# めざせ“農業維新”

## アイとマコトの新・農業人への道

作: くぼさわ かずひさ



農家出身でない人が農業経営を始めるにはどうしたらよいか。ここでは標準的なストーリーを紹介しよう。もちろん、希望する農業経営のスタイルによってその道は様々であり、また多くの場合当初の予定通りにはいかないだろう。修正を繰り返しながら、自分に合ったストーリーを歩んで欲しい。

## 1 どんな人達が農業を始めるの?

新規就農者の前職は、会社員が67%と圧倒的に多く、続いて自営業8%、学生6%、農業従事者5%。現代の農業は、作物生産だけでなく、企画・経営管理や営業・販売などが必要であり、前職を活かした経営を目指すことができる。

## 2 日本一の就農イベント「新・農業人フェア」

農業法人や各県の新規就農相談センター、就農支援に熱心な市町村などが出展する就農イベント。農業法人に就職したい人も、独立経営したい人も現場に近い情報を得ることができる。セミナーコーナーでは、実際に独立就農を果たした人の経験談や、農業法人の社長による求める人材像についての講演を聞くことができる。

## 3 農業でインターンシップ(就業体験)が可能だ!

大学生や高校生、会社や自治体などで、就業体験を行うインターンシップ。実は農業でも全国150経営体から地域や作目を選んで体験できる。社会人もOKだ。

農業を始めるには、農業法人の従業員になる方法もある。就職活動の一環として、また社会勉強としても農業インターンシップを活用して欲しい。

## 4 さまざまな経営スタイル

農業には稲作、野菜、畜産、果樹などさまざまな作目があり、栽培方法、飼育方法だけでなく、必要な資金・施設、販売方法、日々の過ごし方にそれぞれ特徴がある。また、先進的な農業法人では、加工販売、直売所経営、レストランへの直接販売、大手食品メーカーとの契約栽培、多産地によるリレー出荷などを行っているところがあり、従来の農業の枠にはとらわれない様々な試みにより収益を上げている。

# 農業を体験しよう

## 新人担当者が、インターンシップ体験レポート

「農業に関心があるが、実際にどんな仕事?」「自分に出来るかどうか不安」  
 こんな人にお勧めしたいのが農業インターンシップ。  
 全国新規就農相談センターが行っている事業で、  
 農業法人などの現場で農作業や農産物の加工・販売などを体験する。  
 インターンシップで何が得られるのか。  
 同センターの新人担当者が、取材を兼ねた体験レポート。

あなたには農業観があるだろうか。農業を始めたい、農業法人に就職したいという人にとって、自分なりの「農業って〇〇」を見つけられるのが農業インターンシップだ。どんな作業? どんな人たちがどんな理由で体験? 体験後の感想は?

### 自分なりの農業を見つける

私の農業経験は大学の実習や農家への数回の手伝い程度で、作業について行けるか不安がある。その程度でも大丈夫なのだろうか? 不安を抱えながら前日の夜に農場に到着。研修生用の宿泊施設に泊めていただき、早朝から体験してきた。

今回、田植えで忙しい7月上旬に1日体験をお願いしたのは、千葉県で野菜や稲作を経営する(有)三穂グレイン。

露地野菜を中心に、水稲と採卵養鶏で完全無農薬・無化学肥料栽培に取り組み、消費者に直販している。当日は、5人の体験研修生が汗を流していた。三穂グレインでは、朝7時から朝食を兼ねたミーティ

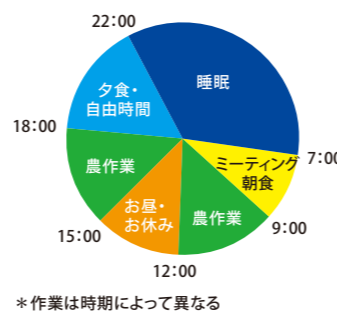
ングを1日の初めに行う。「前日の出荷作業で箱詰めしたハーブパックの反応が楽しみ」「今日は刈払機デビューしたい」ミーティングでは、前日の作業で感じたことや当日に行いたいことを1人ずつ話す。ミーティングに参加しているのは、代表の佐藤文彦さん(54)と2年間の研修生3人、1週間農業インターンシップを受けに来て5日目の長島一成さん(30)・智子さん(29)夫妻、そして私。さらに臨時の手伝いを1人加えた8人で今日の作業を行う。

朝食を取り一休みしたら、9時から作業開始。サツマイモやラッカセイ、モロヘイヤの畑で雑草の草刈りを手伝う。時間が遅いようだが、実は、佐藤さんと研修生たちは5時から作業を始めており、私も眠い目をこすりながら参加した。

「まずは畝間の草を根切りで刈ってね。疲れたら、無理しないで休んで」。お手伝いのおばちゃんのやさしい指導の下、島田さん夫妻と一緒に作業を行った。

カマで草を刈る。慣れている人は作業が早く焦ったが、「勝ち負けじゃないから、自分のペースでね」と佐藤さん。ほっとして、自分のペースで作業を続ける。休みを入れながら3時間ほど作業し、昼食。その後、午後3時まで休憩。暑い時間には作業せず、昼寝するのが三穂グレイン流だ。3時からサツマイモの苗を切り、バジルやナスの苗を畑に植える。作業をしながら、長島さん夫妻に話を聞いた。

三穂グレインでの1日の体験スケジュール



バジルやナスの苗を植える。気持ちがいいので裸足で作業

### レストランを開きたい

—農業インターンシップに参加したきっかけは何ですか?

智子さん 「私は洋服の販売員をしているんですけど、主人と農家レストランを開きたいと、今年5月に東京で開催された新・農業人フェアに相談に行ったんです」

—成さん 「以前レストランで勤務していたときから有機野菜に興味があったんです。数年前からカフェ・レストランを経営したいという目標もありました。自分の農園で有機野菜を作って出したい。でも何の知識もないので…。農業インターンシップブースで説明を受けて、これだ!と思いました」

—なぜ体験先を三穂グレインに?

—成さん 「マクロビオティックに興味があったんです。だから、野菜や米を完全無農薬・無化学肥料栽培している法人で体験したかった」

—体験してみて、いかがですか?

智子さん 「最初は畑に虫がたくさんいてびくびくしていました。でも、この虫たちにも役割があるんだ!と気づいて怖くなくなったかな。農業経験がなくて不安だったけれど、自信ができました。私の時はこうしよう、ああしようと考えながら作業するのが楽しいです」

定植作業が終わった5時頃、長島さんと研修生2人と佐藤さんの家族で田植えに向かう。手作業だ。作業着を腿まできり、苗を植えながら体験生を受け入れる農業法人側の思いを佐藤さんに聞いた。

—なぜ農業インターンシップを受け入れるのですか?

「第一の理由は僕自身が生態系農業を提唱したいから。だから、体験したいという人を受け入れたいという思いがある。農業の、のの字も知らない人が多いから、理解よりも肌で感じてほしい」

- 法人名 (有)三穂グレイン
- 経営主作目 露地野菜、穀物、卵
- 有機農業に対する考え・取り組み 完全無農薬、無化学肥料



インターンシップだけで年間30人が利用する宿泊施設。前列の左から2人が体験中の長島さん夫妻、右が佐藤代表

—私を含めて、体験生に一言。

「正直、農業は難しい。向いていない人もいるし、自営業としてのハードルがある。今まで約200人を受け入れたけど、そのうち就農したのは10人。農家になる人はこんなに少ない。それでも、まずは行動して欲しい。ここで垣間見たこと・経験したことが、麹菌のように発酵して決断のプラスになったら嬉しい」

田植えが終わって、体験生と研修生たちは夕食の準備に向かう。これで私の農業インターンシップは終了。お礼とお別れを告げて帰路につく。体の疲労は大きいけど、充実した1日だった。翌日から数日間、筋肉痛に悩まされたけれど…。

農業インターンシップを体験して、私にとっての農業は恵みだとわかった。自然からの農産物の恵み、そして人との出会いの恵みがあるからだ。次はあなたも農業インターンシップをしてみませんか?

- 売上 2500万円
- HP <http://www1.ttcn.ne.jp/~kurin>
- 提供できる住居 社宅・寮等
- 食事提供の方法 経営者等家族と一緒に、自炊(食材提供)

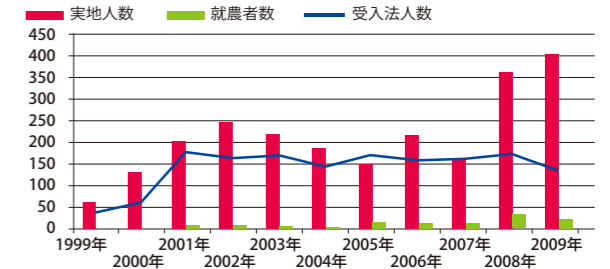
### インターンシップでの注意点

必要最低限用意した方がいいものは、作業着、長靴、雨具、軍手、タオル、洗面用具、保険証など(傷害保険には全国農業会議所の負担で加入)。夏場は汗をかくので、何枚かシャツやタオルを持っていると便利だ。受け入れ先によるが長靴などは予備のものを用意している場合もある。また、部屋が個室ではなく相部屋の場合もある。社会人であれば、自宅から通える場合もある。いずれも事前に確認しておこう。

### 農業インターンシップ

農業法人での農業体験。経営者や研修生と寝食を共にし、農作業だけでなく農業を体験することができるのが特徴だ。全国の農業法人など約150社で体験できる。経営作目も、稲作から観光農園、畜産まで幅広い。期間は1週間~1ヶ月間で参加費、食費、宿泊費は無料。現地までの交通費のみで参加できる。

農業インターンシップの参加実績



# あなたの「農業」をシミュレート

## 稲作編



### 価格下落のなか各地にブランド米

稲には水稲と陸稲があり、水稲は水田で、陸稲は畑で栽培する。日本の稲作は水稲が中心で、新品種の開発や栽培技術の向上により、北海道から沖縄まで全国で栽培されている。

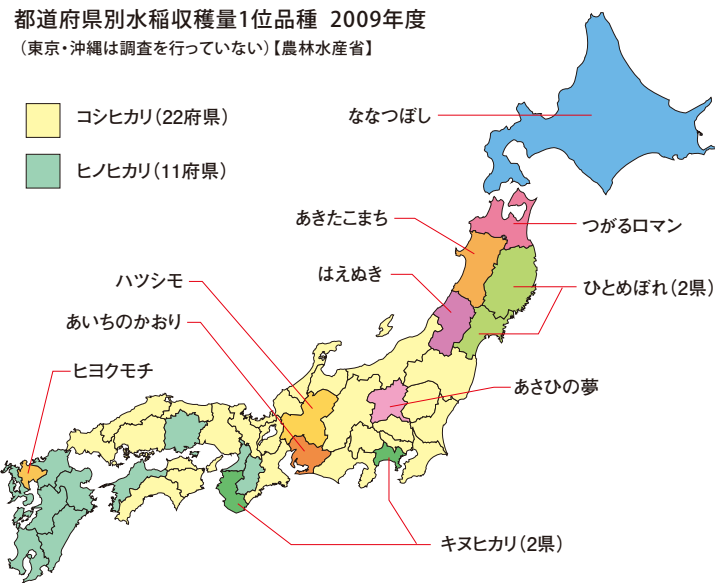
米は日本人の主食であるため高率(約77.8%相当)の関税がかけられているが、代わりに「最低限の輸入義務」(ミニマムアクセス=MA米)が課せられ、消費量の7.2%に当たる約77万トンが輸入されている(MA米は加工用などに流通)。

全国で栽培されるが、主産地は米どころといわれる東北や関東、北陸などの東日本が多い。西南暖地と呼ばれる西日本は年間を通じて様々な作物が栽培され、米の比重が比較的小さいためだ。

一番多く栽培されている品種は「コシヒカリ」で、次いで「ひとめぼれ」、「ヒノヒカリ」の順。その土地での気候条件・栽培方法によって最適な品種は異なり、日本中で様々な品種が栽培されている。

稲作は2500年前から日本で行われてきた。長い間政府によって流通・販売が規制されてきたが、民間流通の成熟によってそれも撤廃。高齢化が進む中、販売力を持った経営体による急速な規模拡大が進んでいる。

都道府県別に、一番収穫量が多い品種は、「コシヒカリ」の22府県。次いで「ヒノヒカリ」の11府県となる。



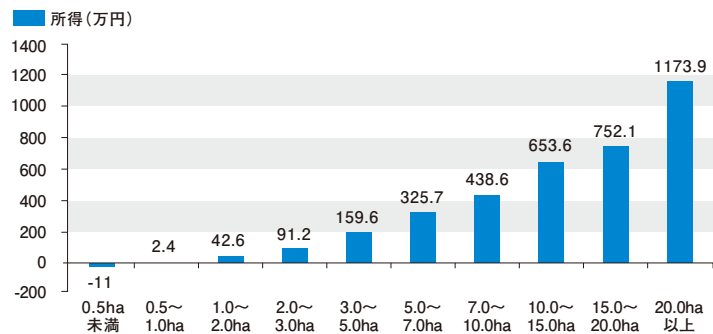
### 米十転作物で安定した就労・収入を

米の販売収入は通常、収穫後の年1回しかない。このため、年間を通じて収入を得られる作物との組み合わせが必要だ。水田の4割で他作物への転作が行われているため、地域の実情に応じた作物を選ぶのが望ましい。転作への協力を条件に助成金を交付する戸別所得保障制度で、経営の安定化が図られている。

稲作での経営は厳しいようだが、意欲的な農家や農業法人は急速に規模拡大している。機械装置など設備投資が不可欠で、スケールメリットが大きいかからだ。

だが、規模が大きくなると経営が成り立たないというわけではない。労力を効率配分できるような他作物との組み合わせや、顔の見える顧客の開拓で、小規模からスタートする新規就農者が多い。

2008年度 水田作付け延べ面積規模別 農業所得【農林水産省】



おいしいと言ってもらえるからこそのできる

福井県若狭町 尾崎晃一さん



「農業の魅力を発信したい」と話す尾崎さん妻の恵理さん、長女の結芽実ちゃんとともに

福井県若狭町で水稲を中心に7haを経営する尾崎晃一さん(32)は、新規就農7年目。福井県認証の減農薬・無化学肥料栽培米で、一部は天日干しも行い、年間売上は800万円。

大阪出身の尾崎さんは、若狭町にある新規就農者を育てる研修農場の(有)かみなか農業舎出身。大学の研究室にいた23歳の時に入社し、2年間の研修を経て2003年に独立した。

「有機農業について勉強していただきます。野菜はこまめな管理が必要だから、自分の性格から難しいと思いい水田にしました。よく研究されているし、農法も確立されている。競争は厳しいですが、日本の農業の基本は米ですから」

稲作での就農には、一定規模の農地と機械などが必要となる。尾崎さんはかみなか農業舎の「親方制度」を利用し、家と機械や土地を借りてスタートした。後継者の

いない地元の農家に「弟子入り」し、親方から農地と機械を借りる方式だ。将来の経営継承も想定している。

しかし、就農2年目で親方とのすれ違いがあり、悩んだ末に独立を決意。3年目に独自で土地を借り、機械も中古を購入した。家も買った。最初に貸りられたのは中山間の狭い水田だったが、1年が経ったら、農業を辞める人が声をかけてくれて、よい条件の土地を貸してくれるようになったという。

### 大規模でやるかブランド力をつけるか

稲作に限らず農地は買うよりも借りた方がいいが、地域の信頼がないと難しい。尾崎さんのように最初は条件の悪い土地から始める人が多い。

それでは、稲作で新規就農したい場合はどうすればいいのだろうか。「就農した先輩に聞くのが一番」と尾崎さん。

「米なら場所を選ぶことは大切です。水が豊富にあるか、病気や虫の発生などその土地の条件を見極める。また、稲作での新規就農は大規模でやるか有機農法などのブランド力をつけるかの二択です。ただし、新規就農者には条件の悪い土地しか与えられないことも事実。あとは、パソコン操作ができることはもちろん、自分で付加価値をつけて高く売る営業力が一番必要じゃないかな」

尾崎さんは、インターネットでの直売や農T(Tシャツ)の販売も手がけている。「僕も、この近くで新しく稲作を始める仲間がほしいんです」

今後さらさら農業の魅力を発信したいという。「自分がこだわった分、価格に見合った米を作れることが楽しい。それをお客様に買ってもらい、おいしいと言ってもらえるからできることです」



自らデザインした農Tを着て農作業をする尾崎さん

# あなたの「農業」をシミュレート

## 野菜編



食卓を彩る野菜は、全国いたるところで栽培されている。種類も多種多様で、日本では約300種類が作られている。他産業からの参入者も多く、新規就農者の6割が野菜生産からスタートしている。

### 国産の「市場」は2兆円以上

野菜は、米と並び農業の最もポピュラーな作物だ。08年の農業総産出額(8兆2585億円)の作物分類では、畜産の2兆4787億円(30%)

2008年の農業経営収支(全国・1経営体当たり)

	露地野菜作		施設野菜作	
	2008年	対前年比増減率	2008年	対前年比増減率
	千円	%	千円	%
農業粗収益	4749	8.4	10020	5.8
うち野菜収入	3666	10.1	8031	2.8
果樹収入	61	96.8	63	△30.0
花き収入	65	14.0	58	56.8
農業経営費	2969	12.4	6369	13.7
うち肥料費	343	4.9	520	12.8
光熱動力費	203	9.7	990	12.5
農業所得	1780	2.3	3651	△5.6

に次ぐ、2兆893億円(25%)にのぼる。野菜の栽培方法は大きく分けて露地栽培と施設栽培の2つに分けられる。生育期間のほとんどを自然環境下で栽培することを露地栽培といひ、ビニールハウスやガラス温室などの構造物内で栽培することを施設栽培という。

05年の農林業センサスによると、露地栽培をしている農家は全国で約43万5千戸あり、施設栽培は14万6千戸だった。

08年の農業粗収益は、露地野菜作経営で475万円(前年比8.4%増)、施設野菜作経営で1002万円(同5.8%増)となった。ここから農業経営費(コスト)を除いた農業所得は、露地野菜作経営で178万円(同2.3%増)、施設野菜作経営で365万円(同5.6%減)だ。

野菜は労働集約的な作物で、比較的小面積でも生計を立てることができる。また、初期投資を含めた営農資金が他の作物に比べて安いのも、野菜栽培の特徴だ。就農1年目に必要な営農資金は、露地野菜で約500万円と比較的少なくてすむた

め、新規就農者の約6割が野菜での経営を目指す。

### 新規就農者の6割が目指す

稲作や畜産などを主要作物としながらも、収入を補う形で野菜栽培を行う農家は多い。種付けから収穫までの期間が比較的短い野菜栽培は、こまめに現金収入を得るための大切な手段となる。また、野菜栽培を専門としている農家の多くも、季節ごとに収入をあげたり、自然災害や病虫害などのリスクを分散させるために、複数の作目を組み合わせた栽培体系を行っている。同じ畑で同じ野菜を作り続けると、病気にかかり収穫量が減る「連作障害」への危険性も高まる。

### イチゴもスイカも野菜

日本では、ダイコンやハクサイといった家庭の食卓で一般的なものから、ズッキーニやルッコラなどのレストランでよく使われる西洋野菜など、300種類以上が栽培されている。イチゴやスイカは一般に果物と認識されているが、植物学的分類では、それぞれバラ科とウリ科の野菜だ。

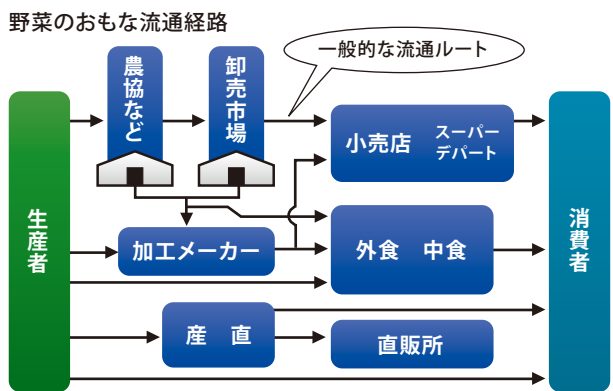
何をやるか、選択肢は無制限大のようだが、地域や農地の土壌・立地などによって、栽培できる野菜は限定されてくる。野菜の特性や就農地の特徴など、事前の情報収集が非常に大切だ。作物は収穫量により価格が変動するので、市場の動向にも注意が必要だ。

野菜農家の仕事は、野菜を作るだけでなく、売

ることで完結する。一般的な野菜の流通ルートは、産地仲買人や農協などの団体を通じて、各地の卸売市場に出荷される。しかし近年は、消費者の安全志向の高まりや完全無農薬野菜などのブランド化により独自の流通・販売ルートを確保する農家も多い。農協を介さずに、インターネットや道の駅などを利用した直接販売も活用され始めている。

ちなみに、生産物に「有機」や「オーガニック」を表示できるのは、日本農林規格(JAS)法に基づく有機JASの認定を受けた者だけで、野菜では総生産量の1%に満たない。

取り組みが増えているのが持続農業法に基づく「エコファーマー」だ。土づくりや農薬、化学肥料の低減など、各都道府県が定める栽培基準を満たす生産者グループなどが、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を知事に提出して、認定を受けた農業者の愛称だ。2010年3月時点の認定件数は約19万7千件のにのぼる。



キュウリのほ場で「農業は大変だけど、サラリーマンに戻る気はありません」と菅原さん

### 発芽の瞬間はいまだに感動

茨城県石岡市 菅原宏樹さん

茨城県石岡市で野菜を有機栽培する菅原宏樹さん(36)は、宮城県から移住し、05年に新規就農した。大学卒業後、塗料を販売する会社で企画や経理などを担当していたが、「家庭菜園での野菜作りが楽しく、これで生活したいと思うようになった」(菅原さん)。

そんな時、新規就農希望者を家族単位で受け入れて2年間研修するJAやさと(同県石岡市)の有機研修制度を知り、夫婦で応募。研修農場で栽培や販売を学ぶ一方、地域へのとけこみにも気を配った。先に研修を受けた先輩からは、「市会議員に立候補したぐらいの気持ちで臨むように」とアドバイスされたという。

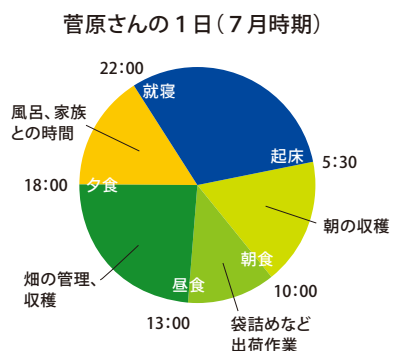
菅原さんの人柄と真摯に農業に取り組む姿勢は次第に周囲に伝わり、隣に住む農業者から有機栽培に好条件の畑を借りることができた。「何をしても要領が悪いので苦労の連続でした。でも、菌を食いしばってでも続ける覚悟がありました」と就農時を振り返る。

### サラリーマンには戻らない

当初80aだった耕地は、6年で2haに拡大し、現在の年間売上は700万円。ニンジンや小松菜、キュウリ、ハウスでのミニトマトなど年間10品目の野菜を栽培し、JAを通して出荷している。「野菜の芽が出たときは今だに感動します。命を育てているのだと改めて実感します」と野菜栽培のだいご味を話す。

夏の時季、菅原さんの朝は早い。5時半に起床し、10時まで収穫。朝食はその後だ。昼食までは、奥さんとともに収穫物の袋詰めなど出荷の準備を整える。午後はまた畑に出かけ、夕方まで汗を流す。「しんどいときもあります、サラリーマンに戻りたいとは思いませんね」と充実した顔で話す。

「野菜農家って、農閑期も農繁期もないんですよ。まとまった休みはまだ難しいかもしれない」と苦笑い。苦勞を分かち合ってきた奥さんと就農後に生まれた愛娘への家族サービスはこれからになりそうだ。



# 農 | 業 | 法 | 人 | で | 働 | こ | う

高齢化で農業の担い手が減少する中、農業法人などへの就業者は、年々増加し、若い世代を中心に「就職先の一つ」として認知されてきている。  
農業法人とはどんな組織で、どんな人たちが働いているのだろうか。

## 農業法人で働く人々



後悔はないと話す中尾修二郎さん

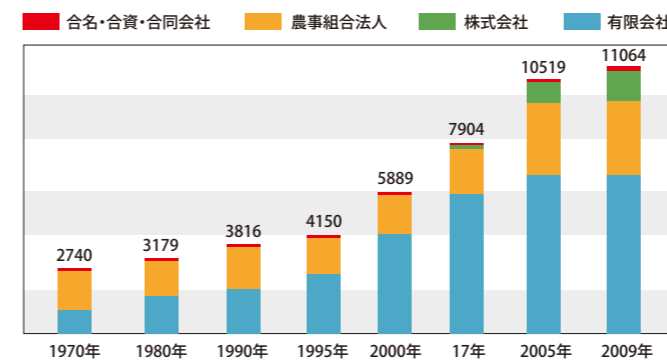
農業法人が雇用の際に重視する点は、農業に対する熱意とやる気。なぜ農業で就職したいのかを見つめ直すことと、事前に農作業を経験し、自分に適性があるのかを見極めることが大切だ。

採用の決め手は熱意とやる気  
従業員を募集している農業法人はどこで探せるのか。全国新規就農相談センターのホームページには、約200法人が40人ほどの求人情報を掲載している。また、同センターが開催する就農相談会の「新・農業人フェア」には、全国から先進的な経営体が出展し、経営者や採用担当者と直接面談できる。  
求人の方も多様化していて、ハローワークや自社のホームページ、求人誌、求人サイトを利用するところも増えている。より良い人材を求めするため、全国から募集する農業法人も少なくない。  
長野県で稲作、酪農、農産加工などを手がける(株)永井農場の従業員は12人で、全員が正社員だ。20〜30代前半の若い従業員たちのうち、県内出身者は2人だけ。多くは県外から就職のために移住してきた。  
東京での仕事を辞めて永井農場で働くようになった中尾修二郎さん(34)は「農業では食べていけないと母親から反対されましたが、僕はここで働きたかった。後悔したことはありません」ときっぱり。  
農業法人が雇用の際に重視する点は、農業に対する熱意とやる気。なぜ農業で就職したいのかを見つめ直すことと、事前に農作業を経験し、自分に適性があるのかを見極めることが大切だ。

## 農業法人って何?

6次産業で広がる可能性  
農業法人とは、農業を仕事とする法人組織だ。法人の形態には様々あり、株式会社や有限会社、合名会社、農事組合法人というものもある。これらの農業法人のうち、生産のために農地を利用できる法人を農業生産法人という。2009年時点で1万1064経営体あり、ここ10年間で倍増している。  
法人の規模は、家族だけで経営しているものから、従業員が数百人もいて、売り上げが数十億円という大規模なものまである。先進的な経営を行う農業法人で組織する日本農業法人協会の会員を対象に07年に行った調査では、従業員数(パート・アルバイトを含む)は平均16.1人。売上高が1億円を超える法人が半数を占めた。  
経営内容は、農産物の生産だけでなく、農産加工や直売店を出すなど多様化している。農産物の生産(1次)×農産加工(2次)×販売・サービス(3次)Ⅱ6次産業化と呼ばれる動きで、多くの農業法人が取り組んでいる。農場をテーマパークにして、季節ごとの催しやこだわりのレストラン、地ビール、さまざまな加工品などを販売して来場者に楽しんでもらう観光農園も各地に生まれている。

農業生産法人数の推移



## 独立へのステップ

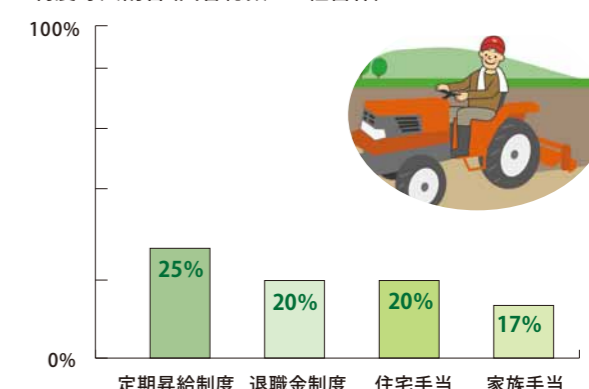
経営ノウハウを学び、地域とつながる  
農業法人で働いている人の中には、将来独立して、自分で経営したいと考えている人が多い。独立を支援する経営者も多いのが、他の産業にはない大きな魅力だ。  
農業法人で働くことは、農業経営者となるための最適なステップといえる。①農地の確保②資金の確保③住宅の確保④営農技術の習得―は新規就農時の4つの課題だが、資金と営農技術は働きながら日々積み上げることが可能だ。農地や住宅も、地域とのつながりの中から、有利な情報を得られることが多い。  
スーパーや外食企業との野菜の契約栽培で年間10億円以上を売り上げる長野県の(株)トップリバーでは、正社員35人のうち約9割が独立希望だ。会社が独立を前提とした人材育成を行い、入社3〜5年では場の管理や企画を任せられるように教育している。独立後もトップリバーと契約栽培できるなど、フォロー体制も整えていて、入社希望者は後を絶たない。

トップリバーの収穫作業。独立を目指してどの顔も真剣だ

## 農業法人の労働条件は?

雇用改善が課題  
農業法人で働くのは、一般の会社と何ら変わらない。仕事が農業と違うだけだ。  
給与額などの労働条件は法人により大きく異なるが、他産業と比較すると見劣りする面もある。全国新規就農相談センターの求人情報によると、初任給は14〜20万円の間で、従業員が同程度の他産業より1万円以上低い。定期昇給制度を取り入れていない法人も多い。同センターが今年2月に行った農業法人への調査では、定期昇給制度が25%、退職金制度が20%、住宅手当が20%、家族手当が17%だった。  
公的保険への加入もこれからの課題だ。同調査によると、加入率は労災保険が75%、雇用保険が73%、健康保険が49%、厚生年金保険が47%だった。  
課題が残されている農業法人での雇用だが、現場で働く人たちは大きな不満を持っていないわけではない。農業法人の多くは、物価が安い農村部にあるため、生活費がそれほどかからない。給料以外に野菜などの「現物支給」もある。他産業から農業法人へ就職した人の中には、「前職の半分の給与額になったが、むしろお金は貯まる」と話す人もいる。

制度導入割合(回答総数291経営体)



# 支援措置を活用しよう

# 静岡県 「がんばる新農業人支援事業」

独立就農を目指す人にとって、頼りに  
全国新規就農相談センターの調査でも、多くの

なるのが行政機関などの受入支援事業。  
新規就農者が支援事業を利用して就農している。

## 経営者を育成する実践的な研修と生活支援

研修生のほとんどが独立し、注目されているのが、静岡県の「がんばる新農業人支援事業」だ。全国から研修生を募集し、先進農家の下で1年間の研修を行い、独立まで支援するもの。県農業振興公社、各農林事務所、JAなどが連携して行っている。これまでに、イチゴ、トマトなどで35人が独立を果たし、2009年度に研修を受けた10人が独立に向けて準備中だ。

応募者は年々増加し、09年度は初年度(04年度)の約3倍の45人となった。東京や大阪を中心に県外からの応募者が半数を占める。募集定員は30人だが研修受入農家との相性を見るなど審査は厳しく、ここ2年は10人ずつ選ばれている。



現地視察・説明会で熱心に説明を聞く参加者  
中央が受入指導農家の水野さん

## 指導農家が面接し、独立後もフォロー

事業の仕組みはこうだ。応募資格はおおむね40歳以下の非農家、または第二種兼業農家出身者。応募者は研修・就農地となる県内5地区(各JA管内)での現地視察・説明会に参加し、指導する受入農家の面接を受ける。

合格者は新たな居住地を決めるなど生活基盤を整えた上で、2ヶ月間の事前研修と受入農家の下で1年間の実践的な研修を受ける。研修を終了すると就農計画を策定し、農地の確保、資金の借入れ、販路の確保など就農準備に入る。ここでも、指導農家や関係機関が全面的にサポートする。

1年間の研修期間中は、生活費として毎月10万円

の助成があり、研修終了後も半年間はフォロー研修として毎月5万円支給される。経営開始に当たっては、無利子の就農支援資金を活用する。

研修中、研修生は受け入れ先の農家である「師匠」の家の近くに住み、師匠から栽培技術や先進的な農業経営を実践的に学んでいく。研修終了後の独立では研修を行った地域で就農するため研修後も引き続きアドバイスを受けられるなど、独立後のフォローもしっかりしている。

同事業では、独立後も師匠とは親子同然のように多くの時間を共にするため、お互いの相性が重要となってくる。

## 周囲の人たちに助けられた

静岡県掛川市 内田広樹さん

独立して4年目の内田広樹さん(36)は、現在24aの農地を借り、施設のイチゴ栽培で1300万~1500万円を売り上げる。農地は研修先の水野薫さん(66)の紹介で水野さんの農地の近くに借りることが出来、営農開始後も指導を受けている。

資金は、認定就農者として無利子の就農支援資金を約1330万円借入れ、ハウスや機械などを導入した。

内田さんは岡山県にある農業法人で働いていたが、たまたま仕事で静岡に来た際、支援事業を知ったという。

「以前から農業法人での経験を生かして独立したいという思いがありましたが、静岡の手厚い支援内容に魅力を感じました。決め手は、現地視察・説明会の時に、先に就農した先輩と話した事です」

就農4年目、2年目の先輩と話した事で、ほとんど知らない場所である静岡での独立イメージが湧き、独立を決意。妻の菜生さん(36)と静岡での就農を決めた。研修期間中は慣れない作業が辛いときもあったが、「研修生が3人いたので張り合いがあり、お互いを高める事が出来た」と内田さん。



「将来は農水大臣賞を」と抱負を語る内田広樹さんと菜生さん

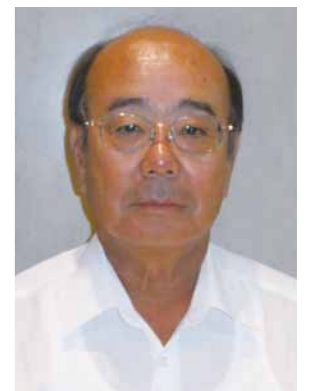
研修を終え、これから独立という時は心配ごとが尽きなかったという内田さんだが、周囲の人たちに助けられた。水野さんはしばしば作業場を訪ねてくれるし、近くに住む先輩も困ったことがあればすぐに助けてくれ、失敗を未然に防ぐ事が出来ている。

現在の経営については、「最近イチゴ栽培のコツもつかみ、徐々に就農支援資金も返済出来ています。将来的には農林水産大臣賞を受賞したい」と抱負を語る。

「あと、必要なのは、妻と二人三脚で農業をしているので、夫婦円満ですね。最近仕事でのケンカもあります」

## フットワークのいい積極性が大事

これまで数多くの研修生を受け入れ、独立を支援してきた水野さんだが、「研修生は農業に関しては素人がほとんどで、一から育てなくてはならないため苦労が多かった」という。その分、研修生が自分の農地を持ち、農業経営者として独立する時はなにものにもかえられない喜びがあると話す。



水野薫さん

新規就農希望者に対しては、「農業の知識があるかどうかは重要ではない。分からないことがあればすぐに聞きに行くようなフットワークのいい、積極的な姿勢を持った人に来てほしい」という。

さらに、「研修生も独立した人もほとんどが同じ地域に住んでいるので、地域との関わりを大事にしてほしい」とアドバイス。夏になれば地域の人を交えてのバーベキューパーティーを開き、祭りがあれば積極的に参加して、地域との調和を図っているからだ。

# 経営の第三者継承を積極支援

新たに農業を始める方法として注目されているのが、経営継承だ。後継者のいない農業経営を、農地や機械施設だけでなく、経営ノウハウ、販路、信用までトータルの「経営資産」として引き継ぐものだ。

## 研修生が優良経営の後継者に

熊本県山鹿市で2010年7月、「地域の財産」と地元で農業関係者が絶賛するミカン農家の経営者が交代した。独自の栽培技術で高級温州ミカンを作り上げ、販売先が確立している不動岩果樹園だ。

誰もが認める優良経営であるが、経営主が76歳と高齢。2人いる子供があとを



立山さん(右)の技術を受け継いで、さらに経営を伸ばしたいと話す東さん

継がないため、今後の経営が心配されていた。後継者の確保に関係者は胸をなでおろし、市長が激励会を開いたほどだ。同果樹園を育て上げたのは、立山誠一さん。定植から3〜4年のようやく

# 経営継承という始め方

実がなり始めた木でも、消費ニーズに合わない判断すれば別品種に切り替えるようなこだわりで、今日の経営を築き上げた。

「子供が学校を卒業するとき、就職しろと言ったんですよ。あの頃は継がせるような経営じゃなかった」と立山さん。70代になり、果樹園を何とか残せないかと考えていたときに現れたのが、優れた技術を学びたいと研修に入った福岡県出身の東拓郎さん(23)だった。東さんも

ミカン農家の次男。農業短大を卒業後、長崎の果樹試験場で研修し、さらに08年4月から同果樹園で研修を始めた。東さんの仕事ぶりを見た立山さんは「いつそのことを継がないかと持ちかけた。東さんは技術的な研修は行っているものの、経営や販売の知識がないため不安であり、実家のこともあつて悩んだが、「こんなにすばらしい経営を引き継げるのなら」と了承。親の承諾も得た。

## 継承条件は栽培技術とブランド力を評価

この話を知った山鹿市農業委員会は、全国農業会議所が行っている農業経営継承事業を紹介。熊本県の農業改良普及センターや農業委員会などが支援チームを結成し、改めて1年間の経営・技術実践研修を行った。研修終了後、継承条件について支援チームを交えて検討を重ね、合意書を交わして継承が成

### Memo

**農業経営継承事業**  
後継者のいない農業経営を、第三者である新規就農希望者に継承することを支援する事業。移譲希望者、継承希望者を募集し、農場訪問などでマッチング。支援は、①1年間の研修期間中、移譲者に月額9万7千円を助成②関係機関がチームを組んで継承を応援③経営継承合意書で権利関係を明確にするなど。事前に組み合わせが出来る。事前に組み合わせが出来ているケースも対象となる。

# メール相談

## 相談室から

**家族と一緒に農業を始めたいが資金がないので、農地の安いところが希望。成功したら家族を呼び寄せて一緒にやりたい。希望作目は、豆・芋・雑穀。(会社員・男性・50歳)**  
**現実的な経営作目を**  
最近の農業は機械や設備が高度化しており、作目にもよりますが、資金の準備は農業開始の大きな条件です。ある程度資金を準備してから、足りない分を無利子の就農支援資金を借りるようにすべきです。

**希望の豆・芋・雑穀は、主に北海道の大規模畑作地帯で行われていますが、数十haの面積でないと採算が取れないので、経営作目の再考をお勧めします。**  
なお、新規就農者の過半数が露地野菜でスタートしており、農地は借りるのが基本です。また、農業は1人では難しいので、やるなら家族の同意を得て、始めから一緒にやるべきです。

**農業は儲けられないという認識は、既存の農家を中心にあります。理由は、儲けからないからです。小規模、農業貿易のグローバル化、外国に比べて割高な資材費などが原因で、実際、農業生産額は以前と比べて大きく落ち込んでいます。これは、農家数が減少していることも、理由の一つです。**  
しかし一方で、食品の安全・安心に不安を抱く消費者への直売や、農産物の生産だけでなく、農産加工やレストランなど経営を多角化したり、流通業者との契約栽培で大規模化し、年商10億円を超すような農業法人を育て上げた新規就農者も現れています。

**要するに、農業はやり方次第で稼げたり、稼げなかったりするのです。**

**自宅から通える東京近郊でインド野菜を始めたい。資金も経験もない。(42歳・男性・自営業)**  
**就農地は広い範囲で探す**  
経験がないのであれば、まず、当センターが行っている研修事業である「チャレンジ・ザ・農業体験」の受講をお勧めします。この体験で自信を得たり、意欲が湧いてくれば、次は技術を学ぶための研修先を探すこととなります。さらに、農業を始めるには、農地・資金・機械施設に加え、住宅の手当も必要です。自営業とのことですが、農業は専業で取り組む姿勢が求められます。片手間では出来ません。

就農地ですが、東京都内、神奈川県、埼玉県では、農家の知り合いでもないければ農地を借りることは難しいです。本気で農業を目指すなら、もっと幅広い範囲で探し、転居して取り組む姿勢が必要で。

## 編集室から

農業への関心が高まり、就農関係の本が次々と出版されています。新規就農相談センターも新・農業人を創刊しました。コンセプトは「あなたの農業をシミュレート」。年2回、就農希望者の目線で、役立つ情報をお届けします。(編集長)

就農情報はずいぶんと得られやすくなりました。パンフレットを見れば一般的なことが書いてあり、雑誌やブログを見れば個別具体的なことが書いてあります。新・農業人は、それらをつなぐ情報誌を目指します。(H)

転職には不安がつきもの。楽天的な思い切りの良さも必要です。かく言う私も、訳あって昨年からの業界に飛び込んだ1人。やりがいと共に増す体重に、時の流れを感じています。(S)

思っていることを活字にするのは難しいですが、その分活字にできたときの喜びは大きかったです。初めてのことで右往左往していた私を暖かく迎えて下さった、取材先の皆様ありがとうございました。(M)

取材は、まるで農家の伝記を聞くようで興味深かったです。終了間際には「もっと聞きたかった」と思うほど。これからも多くの農家の人たちと話して、自分なりの農家伝記集を作りたいです。(Y)